

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県南会場

科目 ⑤児童期（6歳～12歳）の生活と発達

- ◆ 安定した大人との信頼関係の下、活動や休息等が保障される事で子どもは安心して生活し育つことができると知り、子どもの発達の特性や課程を理解し、発達の個人差を踏まえ、一人ひとりの心身の状態を把握し向き合いたい。学びや遊びに自由があるからこそ、子どもは主体的に活動し、個性を磨いていくことができる。子どもの豊かな放課後の生活や発達を保障するために、安全面を確保し、発達特性に関する正しい理解と適切な配慮をもって努めたいと思う。
- ◆ 支援する子どもに対応するときに、どのような家庭、学校、地域社会で過ごしているのかという視点を持つことが発達理解や支援には不可欠で、子どもの発達段階に応じた遊びや生活が可能となるようにすることが求められる。また、発達の個人差を踏まえて育成支援を行う必要がある。児童クラブは子どもたちの生活を保障する場であるが、同時に保護者への育児・就労支援の役割を期待されていることを理解し、適切な配慮をするために継続的に学習していきたい。
- ◆ 低学年、中学年、高学年の3つの時期に区分されること、発達の特徴について学びました。また、子どもたちの発達の特性や発達過程を理解し、発達の個人差を踏まえて一人ひとりの心身の状態を把握しながら支援を行う必要があることを学びました。子どもたちの成長や発達について、私たち指導員も、研修や職員会議等を通して学び続けていきたいと感じました。
- ◆ 児童期は小学校に就学し、環境も変わり、学校に適應するために努力や規律が求められてきます。発達の要因として、遺伝や環境、生態など実験されたようですが、私は子どもを取り巻く環境が大事だと思います。両親の子どもに対する接し方、地域環境、学校の方針を把握し、子どもたちと向き合い見えてくることに気づき、子どもの個性を理解し磨いていけるように努めたいです。また、発達特性に関する理解と適切な配慮を身につけたいと思います。
- ◆ 児童期の発達は著しく、児童クラブはその様々な発達過程を見守り支援できる場だと改めて気づいた。子どもの発達には、家庭・学校・地域など周りの生活環境が大きく影響すると学び、自分もその中の要因のひとつなのだと気が引き締まった。これからも児童期の発達の学びを深めるとともに、日々子どもたちとの関わりを通し、気づきの中からさらに学び、それを子どもたちに返していけるよう努力したい。